

# 平成 29 年度 第 3 回 観光資源開発ワーキング 次 第

平成 30 年 1 月 18 日(木)

15 時 15 分～16 時 45 分

湘南なぎさパーク ヨットハウス ミーティングルーム A1

【14 時 45 分～15 時 15 分 ヨットハーバー屋上よりセーリング会場を視察】

1. YCVB から挨拶 (2 分)
2. 藤沢市観光協会からご挨拶 (3 分)
3. 自己紹介 (10 分)
4. 藤沢市観光協会からご説明 (30 分)
  - (1) 東京 2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組について
  - (2) 観光資源を活用した誘客に向けた取組について
5. YCVB から
  - (1) 観光資源開発の取組について (10 分)
  - (2) ラグビーワールドカップに向けた海外への誘致セールスの取組について (10 分)
6. 意見交換 (25 分)

\* 終了後、横浜側希望者は「湘南の宝石」視察

### 第3回観光資源開発ワーキング議事メモ

**開催日時** 平成 30 年 1 月 18 日(木) 14 時 45 分～16 時 50 分

**会場** 湘南なぎさパーク(藤沢市) ヨットハウス ミーティングルーム A1

**参加者** 23 名

**【藤沢側 6名】**

- ・公益社団法人藤沢市観光協会 (5 名)
- ・藤沢市 (1 名)

**【横浜側 17名】**

- ・ワーキングメンバー (9 名)
- ・委託事業者 (2 社 3 名)
- ・横浜市文化観光局 (1 名)
- ・YCVB (3 名)

### スケジュール

オリンピックセーリング会場視察	14:45～15:15	
意見交換会	15:15～16:50	
イルミネーション「湘南の宝石」視察	17:00～	横浜側希望者のみ。流れ解散

### 意見交換会議事メモ

1 YCVB から挨拶(YCVB 石本)

2 藤沢市観光協会からご挨拶

観光協会は昭和 36 年設立。オリンピックに向けた取組について、観光資源についてお話をさせていただきます。

3 自己紹介

4 藤沢市観光協会からご説明

(1) 東京 2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組について

- ・藤沢市ではオリンピックは 2 回目の開催となる。活動を推進する目的で「東京オリンピック・パラリンピック開催準備室」が平成 28 年に設置された。
- ・競技名は現在は「セーリング」と呼ばれるが 1964 年当時は「ヨット」と呼ばれていた。パンフレットにルール及び種目の説明をしている。周知にも取り組んでいる。
- ・東京大会に向かって市民と連携、19 団体の組織の支援委員会を立ち上げている。10 本の柱の藤沢市支援方針を設定。支援委員会、庁内推進会議もある。ボランティア、健康増進などの部会も設けている。
- ・議会で報告した資料を参照に、要点を説明。

(資料 2 ページ) 支援委員会作業部会による取り組み。①ボランティア等市民参加推進部会。観光協会と連携。ボランティアの力なくして成功はない。②経済観光振興部会。地域経済の活性化、観光振興に向けて議論。周遊してもらうことを重要視し、案内サイン等を検討。③健康増進部会。

(資料 4 ページ) 大会全体を盛り上げる参画プログラム。公認マークを取っている。

(資料～19 ページ) この 4 月から藤沢市で行っている事業。連携の取り組みも掲載。

(資料 20 ページ) ボランティアに関する取組。実施計画を作る予定。観光協会のボランティアの力も借りたい。募集、選定・研修・配置について。ウェブサイトも整備する。

(資料22ページ) 今年の 4 月市民応援団立ち上げる。

(資料 24 ページ) 江の島大会に向けた取組み。平成 30 年 9 月から毎年、3 回ワールドカップが開催されることが決まっている。先駆けて、蒲郡で開催の視察も行った。

(資料27ページ) 神奈川県・国における取組み。

- ・江の島大橋の工事が行われており、2 車線から 3 車線に。ヨットハーバーもこれから整備される。
- ・セーリングはなかなかなじみがなく、周知が難しい。
- ・これからもどうぞよろしく。

## (2)-1 観光資源を活用した誘客に向けた取組について

- ・藤沢市内観光客数の過去 20 年の推移や年間の観光客数等詳細や割合。
- ・藤沢市は夏のイメージがあった。
- ・2003 年にサムエル・コッキング苑がリニューアル。展望台も新しくなった。その時の観光客数はサムエル・コッキング苑が 50 万 3 千人、全体では約 1 千万人。
- ・昨年 28 年度は 1865 万人。このデータは延べ人数。江の島は年間 800 万人位。週末天気がいい時は 1 日 3~4 万人。データから海水浴離れが見て取れる。イベント実績は資料裏面を参照していただきたい。
- ・事業報告書による観光協会の事業の紹介。観光宣伝誘客事業、観光行事開催事業。観光資源保護・調査研究事業、観光施設等管理運営受託業務(岩屋洞窟・公園の管理)
- ・宣伝活動に力を入れている。キャラバン。去年は仙台、北関東エリア、静岡等で行った。新聞社・旅行会社への PR や駅頭でのパンフレット配布等。
- ・フィルムコミッション。多々支援活動を行っている。特に映画の舞台になると聖地巡礼で多くの観光客が来てくれる。海外からも多い。制作会社とタイアップしてロケ地マップの配布も行う。
- ・イベントについて。詳細は資料をご覧ください。藤沢は夏のイメージがあるが、年間を通して観光客の方に来ていただけるよう取り組んでいる。冬季はライトアップの影響で観光客数が増えている。年間を通じてコンスタントに来てもらえる取り組みを行っている。

## (2)-2 インバウンドの取組みについて

- ・藤沢の観光資源といえば真っ先に思い浮かぶのは江の島と東海道藤沢宿。また富士見スポットとしても魅力が大きく、特に夕景を見てほしい。発信したい魅力は日本三大弁財天の一つである江島神社。縁結びのご利益があり、現在は 2 万本のウインターチューリップが満開。本日ニュース every でも紹介された。
- ・市内観光客数 1,864 万人。江の島を訪れる観光客が約 800 万人と想定し、その内の約 6%にあたる約 50 万人が外国人。3 か所に観光案内所があり、海外の方からの問い合わせがあれば国名を聞いている。藤沢はアジアの方が多い。フランス、オーストラリア、ドイツが多い鎌倉と広域連携を進めている。
- ・インバウンドでは電鉄各社・水族館と連携してセールスに取り組んでいる。
- ・地域大学との連携。「観光連携等協力協定」を市内多摩大学と締結。留学生にも協力いただいている。
- ・藤沢は台湾での PR に力を入れ 11 年継続し台北の観光展にも出展。現在台湾高雄の観光展に小

田急電鉄と合同ブースでPRしている。今後はタイにもPRを広げたいと考えている。

- ・「Discover FUJISAWA」と題し 7か国語でウェブサイト運営、情報を発信している。2つの動画の配信も。また店舗用多言語化のメニューソフトを無料で提供している。
- ・プロモーションDVDは8言語で作成し、旅行博等で活用している。マップは、藤沢駅周辺のお問い合わせ対応用に、外国人向けの情報を載せたものを作成している。
- ・ボランティアガイドは48人が稼働している。江の島内の案内所に外国人観光客対応として毎日1人ずつ配置。今年度は新規募集に対して121名から応募があった。現在研修中で4月から登録者を増やす。15言語の方に活動していただく予定。
- ・海外メディアの招聘。ホスピタリティの促進。環境整備としてお祈りのスペースや授乳室などのインフラ整備が求められている。

## 5 YCVBから

### (1) 観光資源開発の取組について

- ・国内誘客課の事業について
- ・修学旅行誘致・キャリア教育プログラムについて
- ・観光資源開発事業について

### (2) ラグビーワールドカップに向けた海外への誘客セールスの取組について

- ・Visit Japan ラグビーワールドカップ 2019TM

横浜のプロモーションについて

RWC2019 に向けての誘客ロードマップ 取組を時系列に説明

- ・ワールドカップに向けた英国・豪州の調査結果について
- ・神奈川県作成のPR動画の上映

## 6 意見交換

横浜: 質問・意見あれば、藤沢市はいかがですか？

藤沢: 横浜のラグビーのセールスの取組について伺ったが、オリンピックについてはいかがか。

横浜: オリパラの誘致はまだ全然動いていない。まだそこまでたどり着いていない感がある。ラグビーを重要視している

横浜: 横浜市役所では市民局がオリンピックの担当となっている。オリンピックに対する取り組みは細かいところを詰め切れていないのが現状。一方、川崎市を見てみると、慶応義塾大学と手を組んでイギリスの事前キャンプの受け入れに取り組んでいる。横浜市ではまだ、動き始めている。

横浜: 横浜でもキャンプ地の誘致は行っているが、それについては全く知られていない。

横浜: 埼玉は1000日前イベントを開催した。横浜は特段何も行っていない。

横浜: 手前にあるラグビーに注力しているのが現状。必要があれば市民局のオリンピック担当者の方を紹介させていただく。

横浜: パシフィコ横浜はいかがか？

横浜: 東京の施設では予約の規制をかけたりしているが、パシフィコでは今のところ特段の動きはない。

横浜(ホテル): 本部はオフィシャルエージェントと絡んでいて動きがある。横浜の施設単独ではまだ動き出していない。

横浜(ホテル): 同じ。具体的にはまだ動いていない。

藤沢: ラグビーは富裕層が来るというが、富裕層をターゲットにしているか？

横浜(ホテル): 富裕層が何を求めるのかがまだ分からない。バーを作らなきゃいけないのだろうか、とい

う話題が出ているくらい。

藤沢：湘南・箱根に回遊させる算段をしなければいけないと感じている。また横浜のホテルにアプローチする必要性を感じている。

横浜(ホテル)：ラグビーの観戦者は滞在期間が長いと聞いている。

藤沢：北陸との付き合いがあるが、特に金沢などはラグビー会場ではないが外国人観光客に期待している。

横浜：外国人は金沢には行きたがっている。

藤沢：江の島のセーリング会場の詳細はまだ明らかでない部分もあるが、江の島島内に選手しか入れない状況になるといけない。観光客も入ってもらえるようにしていきたい。

横浜：海沿いの道はどうなるか？

藤沢：江の島大橋の3車線化は進んでいるが道路の通行がどうなるかはまだ分からない。駐車場の問題も大きい。

横浜：1964年の時はどうだったか？

藤沢：その時にハーバーと橋が作られた。

藤沢：64年の時は、誘客についてはあまり検討していなかったのではと思っている。

横浜：他にはいかがか

横浜：藤沢の年間の客数が右肩上がり。横浜が上がったのは交通の影響だが、藤沢の右肩上がりの理由は？特にシーキャンドルの伸びが驚異的。何かきっかけがあるか。

藤沢：夜景の取り組みと、シーキャンドルのリニューアル。シーキャンドルは江ノ電の所有で、リニューアルの際は地元の人を含めて検討を行った。湘南の宝石は夕景の時間からお客さんに来てもらう仕組み作りをした。最近では昼間の集客は時若干減ったが夜は逆に増えている。フィルムコミッションを通じてドラマやアニメとの連携もあり、そこからの集客も多い。

藤沢：フジテレビの「好きな人がいること」の撮影があった。最近ではアニメーションもあり、藤沢市内のスポットがほぼ実名で登場している。

以上